

## 水稻前除草剤の実用化

(農試 技術部・県南分場)

### 1. 背景とねらい

アレチクロール粒剤は、酸アミド系除草剤で、すでに普及している同系のアタクロール粒剤が単剤で28%、混合剤を含めると44.2%と普及面積も大きく除草効果も高く評価されている。アレチクロールはアタクロールより低成分で有効であり、異常高温・低温に対しても安全性が高まっている。体系処理の初期除草剤として除草及び持続効果が高く、投下成分量の減少に効果的である。

ナフロアニリド・アレチクロール粒剤、ピラゾレート・アレチクロール粒剤は、除草効果及び安全性が高く、従来の初・中・後期剤と組合せて使用する体系処理と1回の処理で雑草防除が可能で、今後の水稻栽培の方向に合致した薬剤である。

ACN・シメトリン・MCPB粒剤は従来から問題となっていた藻類や表土剥離の防止に効果が高い。又、本剤は広葉雑草に除草効果が高く、分けつ期の藻類や表土剥離防止効果に優れている。

### 2. 技術内容

#### 1) アレチクロール粒剤

##### (1) 除草剤名

商品名：ソルネット粒剤 試験名：CG-113粒剤 成分：アレチクロール 2.0%  
毒性等：普通物、B類

##### (2) 除草剤の特性

実用化されているアタクロール(商品名マーシエット)と類似の成分で酸アミド系除草剤である。非ホルモン型、移行性で雑草発生時の主として幼芽部から吸収され蛋白質合成阻害によって枯殺作用を示す。ノビエ1.5華期までの処理でコナギ、ヒルムシロを除く各草種に高い除草効果を示し、-5日～+10日処理での安全性及び除草効果が確認されている。

温度に対する影響は少ない方であるが、散布後の異常高温で生育抑制を生ずる場合がある。

##### (3) 使用方法

初期除草剤であり、移植後3～7日(ノビエ1.5華期まで)に使用するが、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミスガヤツリが多発する地域では移植後5日頃までの処理が効果的である。散布後、3～4日間は3～5cmの湛水状態を保ち、かけ流し等を行わないこと。

#### 2) ナフロアニリド・アレチクロール粒剤

##### (1) 除草剤名

商品名：ヨートル粒剤 試験名：MT-CG④粒剤 成分：ナフロアニリド 2.0%、アレチクロール 2.0% 毒性等：普通物、B類

##### (2) 除草剤の特性

2成分によって1年生雑草及びマツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ヘラオモダカ・ミスガヤツリに40日以上長期間抑草効果が持続する。しかし分解生成物が水とともに流亡しやすいので、水の移動が大きい圃場では効果が低下する。温度に対して影響が少い薬剤である。

### (3) 使用方法

初期除草剤であり移植後3~7日までのノビエ1.5葉期までに散布する。多年生雑草にも効果を高めるためには、移植後5日までに使用する。漏水、少い水田では1回の処理で40~45日以上の間除草効果が持続するので中・後期剤を省くことができる。しかし処理後20~30日頃に雑草の再発生が認められる場合は、中・後期剤と組合せ使用する。

### 3) ピラゾレート・フレチラクロール粒剤

#### (1) 除草剤名

商品名：クサホーフ粒剤 試験名：CG-SWの粒剤 成分：ピラゾレート 6.0%，フレチラクロール 1.5% 毒性等：普通効，B類。

#### (2) 除草剤の特性

ピラゾレートは直播栽培に使用できる安全性の高い成分であり、フレチラクロールは水稲の2葉期以降で属間選択性を示す。これら2成分により、1年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミスガヤツリ、ヒルムシロに45日以上長期間除草効果が持続する。水の移動が少い水田では中・後期剤を省くことも可能である。

#### (3) 使用方法

ナフロアニリド・フレチラクロール粒剤に準ずる。

### 4) ACN・シメトリン・MCPB粒剤

#### (1) 除草剤名

商品名：モケアロン粒剤 試験名：KH-199粒剤 成分：ACN 6.0%，シメトリン1.5%，MCPB 0.8% 毒性等：普通効，B類。

#### (2) 除草剤の特性

3成分。混合剤でACNは非ホルモン型、接触性の作用で光合成阻害によって速効的に枯殺する。他の2成分は中期除草剤に多く使用される成分でイネ科雑草から玄米雑草まで幅広い殺草力を示す。1年生雑草の他、マツバイ、ウリカワ、ヒルムシロ、ウキフサ類、アオミドロ類、表土剥離防止にも効果が高い。

#### (3) 使用方法

SM剤の使用基準を守るとともに、ホタルイやミスガヤツリにやや効果があるので、初期除草剤にこれらの草種に効果の高い薬剤と体系使用する。

### 3. 指導上の留意事項

- 1) リルネット粒剤はコナギ、ヒルムシロに効果が劣るのでこれらに有効な中期剤と組合せる。
- 2) ヨートル粒剤・クサホーフ粒剤は漏水が少く、かけ流しを行わない水田に限って使用する。
- 3) モケアロン粒剤は、ホタルイに効果の高い初期除草剤と体系使用するとともに均一散布する。

### 4. 参考文献・資料

- 1) 除草剤表示圃成績。昭和58年~59年 岩手県
- 2) 水稲作関係除草剤試験成績書。昭和53年~59年 岩手県試果南分場。

### 5. 試験成績

昭和59年度試験成果等普及促進打合せ会資料参照のこと。